

運 営 計 画

(令和2年度)

令和2年5月1日

中央動物専門学校

目 次

1. 建学の目的.....	1
2. 教育方針.....	1
3. 基本的運営方針.....	1
4. 令和2年度 運営重点項目.....	2
5. 運営指針.....	2
6. 学生在籍推定数.....	2
7. 教育指導内容及び教育運営の充実.....	3
8. 教育設備機器等の整備.....	5
9. 就職（進路）指導體制.....	5
10. 広報計画.....	6
11. 附帯教育事業.....	6
12. 同窓会との連携.....	6
13. 主な学校行事予定.....	8

1. 建学の目的

学校教育法に基づき、文化・教養系の中で動物に関わる分野に従事しようとする者に専門的知識及び特定技術・技能を習得させるとともに品性の陶冶に重きを置き、視野の広い良識のある動物管理技能者の育成を目的とする。

中央動物専門学校は、創立110年を超える母体校の専門学校中央工学校（開学1909年）の姉妹校として、2002年に開校した。法人名である「中央工学校」の“工”において、上の棒は「天」、下の棒は「地」、間の棒は「人を結ぶ」という壮大な概念を表し、校是は「堅実」である。

このことを改めてかみしめ、専門学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方を基軸に、動物の基礎知識を学び「人」と「動物」がより良く共生できるための確かな技術力を持った人材を育成するために設立された。

2. 教育方針

動物に携わる関係上、専門分野の教育だけでなく、次の3つを教育方針とし、必要な専門知識と、種々の管理技能をもったスペシャリストの育成を目指す。

- (1) 優しい心
- (2) 倫理観
- (3) 自己責任

学内で365日共に暮らす約100頭の校有動物を通して、命の尊さと思いやりの心を育て、真に人間らしく、強く、優しい人材の育成に努めている。

また、学則では、「自己責任」と対応して、80%以上の出席率を明記し、各科毎の評価と一定の資格取得を必修として定め、心身ともに健全で、苦勞を惜しまず、専門知識と技術を習得した人材を育成する。

3. 基本的運営方針

「建学の目的」と「教育方針」による【動物を優しく見守る心】【命の尊さと善悪の判断ができる心】【最後までやり遂げる意識・責任感の心】の3つの心を持つ学生を、本校の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）とし、その基本的運営方針を次のように定め、全学的に推進する。

- (1) 実技・実習による「厳しい実務教育」を教育の中核とする。
- (2) 「人間涵養教育」により、豊かな社会性を有する技能者を育成する。
- (3) 学生生活の充実のため、学生と共に「楽しい学校」を作る。
- (4) 卒業して「誇りの持てる学校」となるよう、学習環境の整備を図る。

4. 令和2年度運営重点項目

令和2年度の運営重点項目は次のとおりとする。

ア 教育の質の向上

- ・「愛玩動物看護師法」の3年以内の施行に適合するための教育内容の再編成
- ・職業実践専門課程の充実のための教育の質向上及び教員の資質向上

イ 学校運営計画の再構築

- ・学生数の増加による教育体制の確立
- ・自己評価及び学校関係者評価結果に基づく学校運営計画の再構築

ウ 学生募集の強化

- ・愛玩動物看護師法の受験要件適合に向けた募集学科の再編成とその訴求強化
- ・安定した学生確保のための人事組織及び広報手法の改善

5. 運営指針

ア 学校運営組織

令和2年度は次のとおり人員を配置する。

区 分	人 数
本務教員	26
兼務教員	20
本務事務職員	7
兼務事務職員	3
計	56

イ 各種委員会体制

学校運営を円滑に行うために次のとおり委員会を設置する。

- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| ①学友会学生委員会 | ②海外研修委員会 | ③国内研修委員会 |
| ④図書委員会 | ⑤美化・緑化委員会 | ⑥情報発信委員会 |
| ⑦永久パートナー制度委員会 | ⑧同窓会運営委員会 | ⑨大動物実習委員会 |
| ⑩自己評価委員会 | ⑪教育評価委員会 | ⑫動物倫理委員会 |

6. 学生在籍推定数

令和2年4月当初の学生在籍推定数は次のとおりとする。

項 目	1年度	2年度	増減	前年度比	摘 要
学 生 数	301	396	+95	131.6%	新入生、進級生とも増加
ク ラ ス 数	21	21	—	100.0%	

7. 教育指導内容及び教育運営の充実

ア 愛犬美容関連科

(ア) 教育の高度化に向けた取組み

- ①愛犬美容科（2年制）と愛犬美容研究科（3年制）の学習内容の差別化
- ②研究科の授業内容の充実及び転科希望学生の増加策の検討
- ③プードル以外のショーグルーミング授業の実現を検討

(イ) 教育内容の充実を目的とした取組み

- ①動物美容実習における学生数に見合った実習頭数の確保と実習教室の整備
- ②学生の技術力に合わせた指導の徹底
- ③少人数でのグループ実習の拡充による細やかな指導
- ④猫美容実習の充実化
- ⑤校外研修・校外実習の積極的な実施
- ⑥外部講師を招いての実技講習及びトリミング業界のニーズに即した動物美容実習の実施
- ⑦即戦力となる人材育成のための、一般教養とビジネスマナーの習得
- ⑧学生数に見合った動物美容実習指導体制の充実

イ 動物看護関連科

(ア) 教育の高度化に向けた取組み

- ①動物看護科（2年制）と動物看護研究科（3年制）との学習内容の差別化
- ②即戦力となる人材育成のための、一般教養とビジネスマナーの習得
- ③動物看護師養成モデルコアカリキュラムに準拠した教科構成に加え、本校独自のカリキュラムの実施
- ④動物看護研究科における高度医療機関、専門性の高い動物病院、その他臨床検査機関等での校外研修の実施

(イ) 教育内容の充実を目的とした取組み

- ①犬用トレーニングプールを活用した運動療法やマッサージ等、リハビリテーションの基礎を習得
- ②獣医療業界のニーズに即した実習授業の展開
- ③能動的学習の強化
- ④非常勤講師、特別講師、動物関連企業・施設との連携強化
- ⑤動物看護師統一認定試験合格に向けた調査研究
- ⑥動物関連業界への理解を深めるため校外研修の実施と参加奨励
- ⑦新たな国家資格「愛玩動物看護師」制度への対応

ウ 動物共生関連科

(ア) 教育の高度化に向けた取組み

- ①履修年限の長さ（3年制及び4年制）を活かした多様な授業展開で、学生の希望や能力に合わせた有意義な学習環境の整備
- ②創造性と思考能力の向上

③即戦力となる人材育成のため、豊富な校外研修や実習先の確保

(イ) 教育内容の充実を目的とした取組み

- ①コミュニケーション能力及び社会人力の向上
- ②動物業界の動向を反映した教育の実施
- ③授業形態の改善による学生理解度の向上
- ④飼養動物との交流をとおした、共生社会の実現
- ⑤動物の福祉の理念に基づいた飼養動物の飼育環境整備
- ⑥就職先開拓のための積極的な校外研修及び実習の実施

エ 校有動物飼育管理

美容実技試験及び動物美容実習並びに看護検査実習における、学生数に応じた校有犬の頭数管理及び必要種類の維持のため、次の項目に重点を置く。

- ①校有動物の各種実習に対応した必要頭数の確保と健康管理及び繁殖計画
- ②ショークリップ用トイプードルの安定的供給
- ③認定トリマー実技試験用の校有犬のコート管理
- ④校内繁殖の実践と保健所等行政機関との連携強化
- ⑤永久パートナー制度を利用した計画的な校有動物の入替え
- ⑥観賞魚等の校有動物の飼育管理
- ⑦学生数に応じた動物管理室臨時職員の採用

オ 動物美容実習用モデル犬・猫

実践的な動物美容実習を継続して実現させるために、愛犬美容科教員との連携を図りながら、次の項目に重点を置き、モデル犬・猫の安定供給を図る。

- ①モデル犬・猫の登録数及び犬種・猫種の調整
- ②送迎業務及び美容実習における安全対策
- ③モデル犬の老齢化（小型・中型 11 歳、大型 10 歳）による引退及び若年（1 歳以上 8 歳未満）の新規モデル犬確保
- ④モデル犬オーナーへの混合ワクチン・狂犬病接種（毎年）依頼
- ⑤モデル猫オーナーへの混合ワクチン接種依頼
- ⑥動物美容実習における事故発生時の対処と学生指導への反映
- ⑦動物愛護法法令遵守（動物取扱業「保管」の徹底）
- ⑧猫ブリーダーの開拓拡充及び連携強化による猫美容実習の充実化
- ⑨モデル犬送迎車両の適正な運用管理。

カ 教員の資格取得の奨励と積極的な研修参加

授業内容の充実と学生への信頼感確保の観点から、次の資格取得推奨と実務研修等への参加を積極的に行う。

- ①全日本動物専門教育協会認定資格（トリマー、動物看護師、家庭犬訓練士、ハンドラー、キャットグルーマー、動物介在福祉士、動物共生環境コーディネーター）
- ②動物看護師（動物看護師統一認定機構）
- ③愛玩動物飼養管理士

- ④動物取扱主任者
- ⑤東京都専修学校各種学校協会の教員教職課程研修会
- ⑥専修学校コンソーシアム Tokyo 教育の会の各種研修会
- ⑦ドッグショー及び各関連協会の講演会・講習会
- ⑧ペットショップ・動物病院・飼育施設等での実務研修

8. 教育設備機器等の整備

ア 教育環境の充実を目的とした施設・機器類の整備

- ①ホースドライヤーの入替え
- ②実習用洗濯機の入替え
- ③ペットマンションの追加購入
- ④輸液ポンプの追加購入
- ⑤尿化学分析装置の新規購入
- ⑥美容実習モデル犬送迎車両の入替え

9. 就職（進路）指導体制

動物業界の動向と実態を調査し、就職先確保に努め、学生と就職先のミスマッチ防止のため次の項目に重点を置いた指導を実施する。

ア 就職指導

- ①クラス担任との連携を密にし、学生の進路希望を把握し、個々の学生に合った適正な指導を実施する。
- ②早期就職活動の実施に向けて、意識向上を目指す授業や卒業生の講演を積極的に実施する。卒業生講演や企業研究をとおして、学生の職業感や勤労感の育成を図る。
- ③教員による研修先及び就職先企業に関する情報収集を行い、学内で公開する。また、卒業生の現状を調査し、在校生の就職活動及び求人案内に役立てる。
- ④「進路ガイドブック」を作成し、学生の就職活動に対する意欲の向上を図り、保護者及び入学希望者に対して、手厚い就職指導体制を訴求する。
- ⑤インターンシップ等を推進し、就職におけるミスマッチの防止を図る。
- ⑥社会人として必要なビジネスマナーの体得及びコミュニケーション能力の向上に向けた指導を実施する。

イ 求人先・研修先の確保

- ①東京・埼玉・千葉・神奈川を中心とする関東圏 400 社以上の校外研修先への訪問を行い、校外研修先の確保並びに将来的な求人先としての展開に努める。
- ②卒業時の求人の確保のため、首都圏を中心に約 5,000 社に年 2 回、求人依頼及び本校の学校案内書を送付する。
- ③学生の早期就職活動意識を高めるため、合同企業説明会を年 2 回実施する。また、年間を通じて適時、単独での企業説明会も実施する。
- ④動物系雑誌への校名掲載により、知名度向上と求人・研修企業の新規開拓を行う。

⑤卒業生との連携を深め、就職先及び研修先の確保と企業情報の収集に努める。

10. 広報計画

ア 基本方針

令和2年度は、学生募集の強化策として、次の5項目を軸に広報計画を立案する。

- ①東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県を中心に1都3県を中心とした校内ガイダンス参加と、高校との連携強化に重点を置いた募集活動
- ②高校1・2年生の早期イベント参加への誘引強化
- ③インターネット広告・WEB媒体の活用（本校WEBサイト・進学情報サイト他）
- ④広報職員・学生サポーターのスキル向上
- ⑤再編される学科構成の訴求強化

イ 普及活動における広報計画

(ア) 進学説明会への参加

- ①高等学校内開催形式：主に首都圏（1都3県）を中心に年間約400校へ参加
- ②主要都市で開催される会場形式：年間約30会場へ参加（中央工学校と連携）

(イ) 高等学校訪問

- ①学生募集重点地域を中心に、年間4回以上を目標に約500校を訪問
- ②首都圏（1都3県）の高校との連携強化

(ウ) 日本語学校訪問

- ①入学実績校を含め、首都圏の約60校を訪問
- ②留学生センターとの情報共有による訪問の実施

(エ) コンソーシアム Tokyo 関連

- ①しごと倶楽部2020他、加盟校との連携による専門学校の魅力訴求強化

ウ 体験入学、学校説明会等の学内イベント

- ①体験入学6回、学校説明会12回、学科別体験入学8回
社会人・保護者対象学校説明会1回、入試説明会1回、オープンカレッジ2回
- ②高校生が参加しやすい半日のイベントの企画

11. 附帯教育事業

近隣住民・モデル犬オーナー等を対象とし、動物共生総合科4年生の授業の一環として「犬のしつけ方教室」を開催している。令和2年度も継続して、動物共生系学科全体の授業と連動させ実施する。

12. 同窓会との連携

中央動物専門学校同窓会は発足後16年を経過した。同時に発足した学内の「同窓会運営委員会」では、同窓会の定例総会や研修会、会報誌発行、永久パートナー制度の紹介等を通じ、卒業生との連携を深め、在校生の研修先・就職先の開拓へと有意義な活動を展開している。

また、出願者数の増加につなげられるよう、総会や会報誌、ホームページ等での卒業生推薦や入学優遇制度の告知を令和2年度も継続して推進する。

卒業生数は令和元年度末で2,100名を超える。令和2年度も継続して卒業生の現住所等の確認調査を重点的に実施し、精度の高い卒業生データ管理を行う。併せて、卒業生調査を実施し、卒業後のキャリア形成への効果の把握に努める。

同窓会の主な活動予定は、次のとおりである。

ア 同窓会総会等の開催

総会の開催（令和2年6月）

イ 会報誌の発行

（ア）第36号発行（令和2年7月）

（イ）第37号発行（令和3年2月）

ウ 研修会等の開催

随時会員より企画を募り親睦を深める。

13. 主な学校行事予定

令和2年5月15日現在

月	日	行 事	月	日	行 事
4	4	学校説明会【オンライン】	9	17	学校関係者評価委員会
	6	教職員会議【中止】		26	体験入学
	8	入学式【中止】		30	前期授業終了
	9	オリエンテーション【5/28に変更】	10	1	後期授業開始
	9・10	健康診断【5/28・29に変更】		10・11	学園祭【中止】
	13	前期授業開始【6/1に変更】	17	学科別体験入学	
	18	学科別体験入学【オンライン】	11	14	学校説明会
5	9・24	学校説明会・体験入学【オンライン】		28	学科別体験入学
	11～27	自宅学習期間	12	12	学校説明会
	25	合同企業説明会【中止】		23	冬期休暇前授業終了
6	2	授業参観日【中止】	24～1/6		学生冬期休暇期間
	13	学校説明会	1	7	授業開始
	16	教育課程編成委員会①		9	学科別体験入学
	21	体験入学		13～15	協会一斉学科試験
	26	体育祭【中止】		19	教育課程編成委員会②
		23		学校説明会	
7	11	保護者対象学校説明会・学校説明会	2	1	卒業学年定期試験
	22	夏期休暇前授業終了【8/7に変更】		12	卒業学年授業終了
	23～8/31	学生夏期休暇期間【8/8～8/19に変更】		13	学科別体験入学
	23	体験入学		26	卒業研究発表・後期授業終了
	28・30	学校説明会		27	学校説明会
	29	オープンカレッジ		3	4
31	夏期職員研修会【中止】	9	卒業決定発表		
8	4	学科別体験入学	13		学科別体験入学
	6・26	学校説明会	17	進級成績審議会	
	22	体験入学	19	卒業証書授与式	
	28	オープンカレッジ	26	進級発表	
	31	教員研修報告会	30	新3年生対象体験入学	
9	1	授業開始【8/20に変更】			
	12	入試説明会・学科別体験入学			